

## 元氣いっぱいの中

## 創立30周年に皆がくれたもの

新潟県長岡市立秋葉中学校

三年 馬場 梨央

元氣いっぱいの中にした。これが私の今年の生徒会活動における、目標になっています。

私が生徒会長として最初に取り組んだのはスローガンを決めることでした。昨年度末にとった全校アンケートの中で「どんな秋中にしたいか」という項目で挙げられたキーワードとして「積極的」「挑戦」という前向きな気持ちと「誰とでも」「笑顔」「楽しい」という明るい気持ちが多く表れていました。そこで、生徒会本部では、全校が心を合わせて諸活動に取り組み、秋葉中学校での生活が楽しく、好きと感じることで、卒業して大人になってからも母校に誇りをもてるような学校にしたいと考えました。そのため、みんなで力を合わせて協力したり積極的に挑戦したりできる生徒会、学校を目指すことを基本方針にしたいと考えました。

そこで今年のような生徒会スローガンにしました。「TRY 30周年の絆〜みんなでつくるOne Soul」です。このスローガンには、いろいろなことにチャレンジして、30周年だからこそ築くことのできる絆を深める。そのために全校が一丸となって、One Soulなる絆をつしよう、という思いが込められています。One Soulには「同じ方向を見ること」

「同じ思いをもつこと」「気持ちを共有すること」という意味があります。日常生活や各行事で、全校のみんなが一つの目標に向かって、心を一つにして生活することができるようになります。

また、生徒会本部では、生徒会スローガン達成に向けての重点項目を考えました。

一つ目はOne Soulになれるような場をつくる。二つ目はいろいろなことにチャレンジできるような場をつくる。三つ目は絆を築き、深められるような場をつくる、です。生徒同士が打ち解けあえるような機会をつくり活動することで雰囲気をよくし、活動しやすい雰囲気にしたと思うからです。

さて、本年度秋中が30周年を迎えられたのは地域の方や先輩たちがあつてのことです。30周年で深められる絆があればこそ、今年のスローガンは達成されると思っています。そのためには様々な工夫を取り入れていかなければならないと思いました。

しかし、「絆を深める」といつてもいいでしょう。体育祭は生徒会が主催していますが、今年「30周年記念体育祭」になる、ということ、私は二年前に生徒会長を務めた兄に相談してみました。すると、兄はいろいろなことを話してくれました。たとえば、全員リレーを取り入れ、一体感を味わってもらおうか、などいろいろな話になりました。経験上、「棒倒しをなくせば、男子の反対にあうだろう」ということや、全校の人数が少なくなっている、安全面も考えていかなければならない、ということなどもお互いに話しました。兄はまた、こう言いました。

「他の学校に比べれば秋中は人数が少ない。でも、学校内での仲がいいことやノリの良さがある。ユーモアが特にあると思う。個性は強いが、行事に情熱を注げる人がたくさんいることが秋中の強みなんだ。」

生徒会全体で取り組みやすいし、盛り上がってくれ。いじめのない、楽しい学校として過ごしている」と。同じ立場に立ったことがある者同士のわかり合える時間に、自分自身ほっとしました。卒業生からそう見られている秋中は私たちの誇りです。

そんな折、生徒会本部でどんなイベントをしたいか案を出し合ったところ、「風船に願いやお祝いのメッセージをつけて空に飛ばしたい」「地域の人たち千人を集めて一緒に行きたい」という希望が出てきました。しかし、お金がかかりすぎます。ちょうどそのとき、校長先生が相談にのってくださいました。給食を食べながら話し合いを重ね、私たちの案が実現することになりました。

九月二日。前日の雨とは打って変わり、爽やかな青空の下、色とりどりの「風船飛ばし」「バルーンリリース」が行われました。地域の方々も一緒です。皆の思いが一つになったなあと実感しました。そして何と、翌々日に学校に電話がきました。山形県の米沢市に届いた、という知らせでした。私たちはまた、嬉しい気持ちになりました。

私は、今年度の初めに「30周年だから新しいことをしなくてはならない」ということにプレッシャーを感じていました。今回はイベントができましたが、今までの活動の積み重ねや仲間とのかかわり合いに意義があるということも実感しています。その「温かい雰囲気」を大切にしながら、今後も元氣な秋中をつくっていききたいと思います。